健康データサイエンスのための統計学入門セミナー（HDS） 参加者の声 ～参加者アンケートより～

■ 臨床試験とエビデンス創出 -仮説と検証-：午前の講義

- 臨床試験とデータサイエンスの違いがわかり易かった。市販の書籍などにあまり書かれていない点についても言及して良かった。『健康科学データ解析マップ』がわかり易くて良かった。
- 承認率 8%となっている臨床試験の現状の数値を打破するために、プラットフォーム試験のような手法がデザインされ、海外で導入されていることが聞けて良かった。新型コロナウイルスのワクチン製薬に海外との差が出ている原因が理解できました。
- 統計解析について概観を知ることができました。今回の講義での目的に沿ってどこまで学び、どこからは発展として割愛しているかが分かりやすかったため、次にどんなことを学ぶべきかイメージできたのが良かったです。
- 試験デザインについて、試験の種類やメリット・デメリットなど理解がかなり深まった。

■ 臨床試験とエビデンス創出 -仮説と検証-：午後の講義

- α エラーや β エラーなどについて説明だけだと分かりづらいところですが、コイントスの実例を挙げて説明していただいたことで理解が深まりました。
- コイントスを例として身近な例を使って一連の流れで講義して頂いたので興味深く話が聞けた。
- 臨床試験での仮説検定の手法や例を述べていたので、検定方法を具体的にどのように利用しているかがわかりやすかった。サンプルサイズの決め方も具体的に利用している値が述べられていたので、今後利用する際の参考にしたいと思った。
- サンプルサイズの決め方の話で特に強く感じたことですが、統計学としての枠組みの理解だけでなく、解析の結果を誰がどのように利用するかなど解析のゴールについて深く考えることが、解析について学ぶ上で重要だということを感じました。

■ 健康科学データの統計解析 -多要因の関連解析-：午前の講義

- 統計学の全体概要を知らなかったため、丁寧にご説明いただき、仕事の業務との関連を知ることができました。
- 交互作用の量的交互作用について、製薬の際には、この場合にも承認が得られるという意見を聞いたのは良かった。テストを受けた生徒と各教科を因子として分散分析を行った事例がわかりやすかった。
- データ解析マップは色々なデータに対する解析手法を俯瞰的に書いていて有用だと感じた。
- 体系的な情報のほか、それらの注意点なども含めてお話ししていただけたのがよかったです。
- 医療分野で利用されている解析手法について、知ることができましたが、結果の見方でわかりづらい部分もあったため、解釈の方法に資料を割いていただければと感じました。

■ 健康科学データの統計解析 -多要因の関連解析-：午後の講義

- 理数モデルを使用される説明においても、分かりやすく分解して説明していただけたので、何を目的に、どのように計算されているかの概念を理解することが出来ました。
- ボンフェローニ検定は保守的になるため使う人は少ないなど、実務的にこの解析を使っているのかどうかということを先生の視点でお話し頂けたのは統計初心者の私にはありがたかったです。
- ロジスティック回帰分析の例を元に、モデリングを行う際は、データのカテゴリやイベントの発生率を考慮するためのオッズの検討を行い、モデルに落とし込めるようにしたいと思った。
- 普段検定を行うときに、多重比較の取扱いについて悩むことが多いため、適応場面や考え方を教えていただけたのが良かった。
- 連続変数だけでなく、離散変数の分析手法についても触れてくださり、包括的な理解が促進された。